（別紙３）

# 公表　事業所における自己評価総括表

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ○事業所名 | | | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025(R7)年　3月　3日 | | ～ | 2025(R7)年　3月　28日 |
| ○保護者評価有効回答数 | （対象者数） | 6 | （回答者数） | 6 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025(R7)年　3月　3日 | | ～ | 2025(R7)年　3月　28日 |
| ○従業者評価有効回答数 | （対象者数） | 6 | （回答者数） | 6 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025(R7)年　5月　1日 | | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 職員が安定していることにより、療育参観（月1回）や親子レク（年に２回）などが定期的に開催ができるようになってきている。 | 朝のミーティングや月に一回の職員会議にて、職員間の意見交換や情報共有を行っているため、子どもたちの普段の様子や統一した療育が可能なことで、より色々な行事や参観日が設定できるようになっている。 | 子どもたちが地域と自然に関われるよう、地域住民や相談支援員を積極的に招き、交流の機会を広げることで、より開かれた支援環境づくりを目指していく。 |
| 2 | 地域に児童センターや公民館などがあるため、積極的地域資源を活用している。 | 土曜日や長期休み期間を利用して、定期的に交流を行っている。児童センターの職員や学童の児童とも顔や名前を覚えてもらったりと交流を深めることができている。継続して行っていきたい。 | 職員同士で定期的に振り返りを行い、子どもたちへの支援の成果を共有しながら、より良い関わり方を模索するとともに、保護者や地域の方々と連携を深め、子どもたちの成長を支える活動の幅を広げていく。 |
| 3 | 避難訓練も全職員が担当し、災害が発生したあらゆる想定を普段から話し合う機会が増えている。 | 全職員が担当することで組織全体として防災意識が高まり、責任感を持って訓練に取り組むとともに、緊急時の動きをスムーズにするために職員の役割を事前に決め、さまざまな災害を想定した訓練を実施し、異なる状況での対応力を磨いている。 | 職場内だけでなく地域の施設や避難所を活用し、子どもたちの安全を守るための実践的な訓練を行うとともに、職員だけでなく子どもたちや保護者、地域住民と連携した避難誘導のシミュレーションを実施し、災害発生時には子どもたちが安心して行動できるよう、お互いに助け合いながら声を掛け合える環境を整えていく。 |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 家族支援プログラム・研修会・懇談会等開催しているが参加状況にばらつきが見られる。 | 保護者との定期的な面談を実施し、相談しやすい環境づくりを進めている。ただ、仕事の都合でスケジュール調整が難しいこともあるため、相談体制をもっと計画的に整えていく必要がある。 | より多くのご家庭が参加しやすいよう、柔軟な面談や相談機会を増やし、研修会の内容を資料で共有し、オンライン・電話相談も受付。保護者が気軽に話し合える場を設け、情報共有や支援の幅を広げます。さらに、連絡帳システムを活用し、定期的に相談日時を提案していきたい。 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |